

キャプション付き映画の教育的効果について

鈴木典子

ここ数年 LL 教材としてキャプション付き映画（英語の字幕付き映画）を利用してきたが、教育的にどのような効果があるのか疑問を抱きつづけていた。文字中心の教育を受けて来た学生にとって文字の魅力は大きいらしくキャプションを出すと嬉しとした表情で画面に食い入る。学生は果してどの程度文字を読み取って理解に役立たせているのか。それは英語の聴解力の能力差と関係があるのだろうか。あるいは文字を読むことにとらわれ過ぎて英語の音声聞くことおよび映像への注意がおろそかになりはしないであろうか。等など指導していて疑問はつきない。

最近の研究として、比較的内容の容易な題材（Adventure in 2000 Words）を用いての小張敬之氏の実験により、映像と音声だけのビデオを使用するよりそれに文字（キャプション）を加えた方が一般的聴取理解が増進することが確かめられた（1993 LLA 関東支部研究会）。また同氏による ABC ニュースの教材を用いての実験ではキャプションを利用することによって聴取対象教材の理解が向上するであろう事も確かめられている（1993 JACET 全国大会）。ところが亀井、広瀬両氏による研究では文字に注意が集中することによって音声と映像への注意力が希薄になることが報告されている（1993 LLA 全国大会）。

ここではミュージカル映画の The Sound of Music を取り上げ、キャプションの及ぼす影響を実験してみたい。LL (III) の二つのクラスを対象とし、一つは文字（キャプション）、映像、音声情報を与え（実験群）、もう一つのクラスは映像と音声情報のみ（統制群）与えて、他は同じ条件で指導し、二つのクラスの進歩の度合いを比較検討しこれからの指導法の参考にしたい。

比較検証すべきこと

文字、映像、音声情報を与えるクラス（実験群）と文字情報無しで、映像と音声情報のみを与えるクラス（統制群）の間で

- (1) 対象教材の理解度に差は見られるか。
- (2) 一般的聴取理解力の向上に差は見られるか。

(3) 被験者の聴解能力の差によって何等かの違いが見られるか。

実験を始める前に

まず二つのクラス（実験群と統制群）の学生の英語聴解能力がほぼ等しい事が条件となるため JACET テスト（大学英語教育学会により開発された英語聴解力標準テスト）の Form (A) のスコアによって各クラスを二つのグループに分け（上位群と下位群）それぞれの平均点を殆ど等しくして（1対1の対応で選び上限，下限あわせて10人カット）英語聴解能力がほぼ等しいクラスを二つ作る。

JACET テスト結果（平均点）

	実験群	統制群
上位群	75.37	74.63
下位群	38.74	41.67
全体	57.05	58.59

実験方法

The Sound of Music を各授業毎、適当な内容の区切り（5分間位）まで見せて、その時に応じて大意把握（True or False Questions や、summarize した文章にブランクを作っておきそれを埋めさせたりする）英問英答，空所補充，Note-taking 等を試みさせてその場面の理解を促すという方法で授業を一学期間（14回）行ない，その中から5場面について行なったテストを取り上げ二つのクラスの比較を行ないそれぞれの結果を分析する。

実験群は初めからキャプションを付けたもの（文字，音声，映像三つの情報）を与え，質問をした後二度繰り返してキャプション付きで見せた。統制群は，すべて文字なしで，すなわち音声と映像情報だけで同様の方法で合計3回見せた。検証すべき点の（2）については，14回のレッスンの最後に JACET テスト Form (B) を行ない先の JACET テスト Form (A) のスコアと比較する。

実験及び検証

Scene (1) マリヤがはじめてキャプテンのところを訪れ子供たちを紹介される場面を見せた後，次の様な質問を配り目を通させた後，上述のようにそれぞれ二度見せる。

Questions

1. Who is at the door?
2. Why does Maria stare at Captain?

3. Does Captain like the way she dresses?
4. Does Maria have other dresses?
5. Can she make her own clothes?
6. Is Captain going to give her the material?
7. How many governesses were there before Maria?
8. Who stayed only two hours?
9. Why doesn't Maria like the idea of using the whistle?

9問中の正解数 (平均) および正解率 (平均)

	実験群(キャプション付き)	統制群(キャプションなし)
上位群	7.94(88.2%)	7.71(85.7%)
下位群	7.88(87.6)	6.83(75.9)
全体	7.91(87.9)	7.01(77.9)

内容に関する英問英答であるが, t検定の結果 $t=4.2407$ ($df=68=2.384$ $p<0.01$) でこの二つの平均点に有意差があり, 正解率は平均で10%だけキャプション付きの方が高いことが明らかになった。答案を詳しく調べてみると, 問2の Why does Maria stare at Captain? に対する答えとして, マリヤが映画の中で “You don't look at all like a sea captain.” と言っているので正解は, He doesn't look at all like a sea captain. であるべきところを文字を見ていない統制群の殆ど半分 (51%) が at all と続いて発音しているのを tall と聞き取ってしまっていて Because he is tall. の様な答えをしている。(キャプション付きのグループでは tall と間違えたのは35人中2人だけだった)。このように, 音声だけでは英語特有の音変化を起こしている場合日本人には特に聞き取りにくいので, キャプションは非常に役に立つということが実証された。

Scene (2) 次はマリヤの部屋に家政婦がきて彼女に洋服の生地を渡しキャプテンとパロネスの事などを話す場面。設問形式は True or False Questions。

Questions

1. Maria wants more material for herself. ()
2. Maria wants to make some play clothes for the children. ()
3. Captain wants nothing that reminds him of his wife since she died. ()
4. Maria doesn't think new drapes are necessary. ()
5. The new drapes have not been ordered yet. ()

6. Frau Schmidt thinks Captain is going to stay in Vienna for a month. ()

7. Captain is thinking of marrying the woman. ()

7 問中の正解数 (平均) および正解率 (平均)

	実験群(キャプション付き)	統制群(キャプションなし)
上位群	5.10(72.9%)	5.76(82.3%)
下位群	5.47(78.1)	5.70(81.4)
全体	5.29(75.6)	5.73(81.9)

正解率を比較するとこの問題では実験群のキャプション付きのグループの方が上位群, 下位群とも僅かだが正解率が低い。どの問題でそれぞれ誤答しているのか, それぞれの問題の誤答率を調べてみると次の様になる。

	実験群(キャプション付き)	統制群(キャプションなし)
問題 1	11.8%	0.0%
2	0.0	2.9
3	11.8	5.9
4	20.6	5.9
5	38.3	35.3
6	66.2	61.8
7	5.9	0.0

ここから解るようにどのグループも問題 5 と 6 に間違いが集中している。問題 5 に関して考えてみると, 映画の中ではマリヤと家政婦の二人は次の様な会話をしている。

Housekeeper: There'll be new drapes at the windows.

Maria: New drapes! But these are fine.

Housekeeper: Nevertheless new ones have been ordered.

問題 5 の The new drapes have not been ordered yet. を間違っ (True) としてしまったということは上記の台詞, 特に "Nevertheless new ones have been ordered." が理解できていなかったことになる。両グループとも同じ位間違っている。短い台詞なので読む時間はあったと思われるが "Nevertheless" が解らなかったか, あるいは "new ones" が解らなかったのであろう。この二つについては new words として解説してない。わからない単語はたとえ文字を読んでも理解できないわけである。次に問題 6 について検討してみたい。両グループと

も誤答率は一番高い。映画の中では、マリヤが“How long will he be gone?”と聞いたのに対して、家政婦が“It all depends. The last time he visited the Baroness he stayed for a month.”と答えている。この台詞の最後の“...for a month”だけ聞き取って (True) としてしまったと思われる。キャプション付きのグループの方が僅かだが間違いが多いということは文字を見ているにもかかわらずこの位の長さになると全部読み取れるわけではなく最後の文字だけが印象に残ったのであろう。また “It all depends.” は解説したはずだが一度ぐらいの説明では定着しないのが普通なので良く理解できていなかったのかもしれない。そのことがこの問題の正解率を低くしていると思われる。これも先に述べた英語力の問題になってくる。単語あるいは熟語そのものが解らなければ文字の助けがあっても解らないものは解らないということであろう。その場合文字を読むことにとらわれている方がただ音声と映像に集中しているより理解度が落ちるということではなかろうか。場合によっては文字が干渉して理解を妨げると言うことは、注意すべきことである。その Scene の内容とか英語の難易度によってキャプションを出さないようにする等指導上の注意が必要となる。

Scene (3) 次も同じく内容に関する True or False Questions である。マリヤがお祈りしている時リーズルが窓から入ってくるころ。

Questions

1. Liesl climbed up the wall. ()
2. Liesl tried to wake somebody up. ()
3. The children always got into this room to play tricks on a governess. ()
4. Boys can climb up the window with a whole jar of spiders. ()
5. Liesl was out walking all by herself. ()
6. Liesl told Maria that she didn't need a governess and she still thinks that she doesn't. ()

6 問中の正解数 (平均) および正解率 (平均)

	実験群	統制群
上位群	5.76(96.0%)	4.70(78.3%)
下位群	4.88(81.3)	4.82(80.3)
全体	5.32(88.7)	4.76(79.3)

この数値から見ると平均で9.4%の差である。t 検定の結果、 $t=2.584$ ($df_{46}=1.681$ $p<0.05$) でこの平均点に有意差のあることが明らかとなった。すなわち平均で9.4%だけ実験

群が統制群に比べて高い理解度を示している訳である。それぞれの問題の誤答率は次の通りである。

	実験群			統制群		
	上位群	下位群	全体	上位群	下位群	全体
問題 1	0.0%	5.9%	2.9%	5.9%	5.9%	5.9%
2	11.8	0.0	5.9	17.6	17.6	17.6
3	5.9	11.8	8.8	17.6	0.0	8.8
4	11.8	47.0	29.4	52.9	64.7	58.8
5	0.0	0.0	0.0	17.6	17.6	17.6
6	0.0	11.8	5.9	5.9	11.8	8.8

この場面は映像に動きがある。特に問題 1 と 5 は、たとえ音声や文字が理解できなくても答えられるはずである。それなのに問題 5 はキャプションなしの統制群で 18% 間違っていて、キャプションありの実験群で全部正解というのは、これまでの先行研究でいわれているように文字情報は映像や音声への注意力を奪うというのと相容れない結果になっている。(先にのべた Scene (3) の結果とも矛盾する) という事は、被験者の反応はすべて一定している訳ではないので数少ない実験で結論を出すのを急ぐことは危険であるということであろう。

もう一つ気になる現象がある。キャプションなしの統制群で 4 問目の誤答率が上位群 53%, 下位群 65% と両グループともかなり高いが、キャプションありの実験群では上位群は 12% と誤りが少ないのに、下位群は 47% とキャプションなしの統制群と同じぐらいの誤答率なのは何を物語っているのだろうか。この問題 4 の答えを導き出すヒントはリーゾルの次の台詞である。“Louisa can make it with a whole jar of spiders in her hand.” 上位群の学生はこの Louisa という文字を読み取ったのであろう。先の問題では、“...for a month.” という最後の言葉を読み取っていたが、ここでは文頭の Louisa を読み取った事になると、文尾や文頭の文字は読み取りやすく、かつ印象に残りやすいという事が言えよう。ここではどの問題も実験群では上位群の方がかなりよく出来ている。それに反して統制群では、上位、下位群の差が余り見られない。聴解力のあるものは Reading の能力も優れているということによく言われるが、やはりここでもそのことが実証されている。

Scene (4) 子供たちとマリヤによる人形劇の後、皆で話し合う場面を見せた後その場面の内容を summarize したものに空所を埋めさせる次の様な質問を配り、あと二度見せて問題に答えさせた。

1. They are very much (1) to see the puppet show.
2. Gretl wants to keep (2).
3. Max asks Prof. Konits to (3) the (4) to their father.
4. Maria is not sure if she'll become a very good (5).
5. Max says he has found 'a most exciting (6) for the Salzburg (7)'.
6. 'A singing group all in (8)(9)' means (10).
7. Captain likes Max's idea. (yes, no) (11)
8. Captain says 'My children (12)(13)(14)'.
9. Captain used to sing quite well. (yes, no) (15)
10. Captain sings (16).
11. Baroness proposes 'it's (17)(18) I met all your friends here...'
12. For (19) it'll be her (20) party.

括弧の中の数字をそれぞれ1点として得点を数える。集計の結果は次の通りである。20項目中の正解数及び正解率(いずれも平均)

	実験群	統制群
上位群	11.78(56.35%)	8.11(40.55%)
下位群	10.66(53.30)	5.78(28.90)
全体	11.22(56.10)	6.95(34.75)

t検定の結果 $t=6.892$ ($df46=1.681$ $p<0.05$) で平均値に有意差は認められ、実験群は平均で21.35%も統制群に比べて高い理解度を示している。

どの問題を間違ったのかそれぞれの誤答率を調べてみると次の様になる。(それぞれ平均)

	実験群			統制群		
	上位群	下位群	全体	上位群	下位群	全体
問題1	13.0%	13.0%	13.0%	53.0%	57.1%	55.0%
2	53.3	71.4	62.4	100.0	92.0	96.0
3	80.0	71.4	75.7	86.7	92.9	89.0
4	80.0	64.2	72.1	100.0	92.9	96.5
5	46.7	50.0	48.4	86.7	85.7	86.2
6	33.3	64.2	48.8	53.0	85.7	69.4
7	20.0	57.1	38.6	86.7	64.3	75.5
8	20.0	50.0	35.0	33.3	57.1	45.2

9	20.0	50.0	35.0	20.0	57.1	38.6
10	46.7	85.7	66.2	80.0	85.7	82.9
11	0.0	14.3	7.2	0.0	14.3	7.2
12	0.0	7.1	3.6	6.7	21.4	14.1
13	0.0	7.1	3.6	6.7	21.4	14.1
14	0.0	0.0	0.0	14.3	7.2	10.8
15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
17	26.7	35.7	31.2	53.0	78.6	43.3
18	2.7	35.7	31.2	53.0	78.6	43.3
19	33.3	50.0	41.7	86.7	71.4	79.1
20	6.7	28.6	17.7	80.0	71.4	75.7

問題1に関しては、実験群で上位、下位群とも13%と誤答率が低いのに対して統制群では55%を越えている。これは映画の中の台詞である“I really am very much impressed.”のimpressedの文字がキャプション付き実験群では印象に残ったと思われる。問題2では実験群の誤答率も62.4%と余り出来はよくないが統制群では96.5%と殆ど全員に近い人が出来ない。問題3も2と似たような数を示している。この問題2と3は少し難しかった（映画を見ていて内容が取りにくかった）ので問題としてあまりよくなかったと反省している。問題4も統制群は86%という誤答率であるのにキャプション付の実験群では48%である。これはマリヤの台詞“I’m not sure I’ll make a very good nun.”を理解出来たかどうかの問題だがこの“nun”は既出単語で説明済みの筈であるが、一度ぐらい説明を聞いたのでは耳しか頼れない統制群ではなかなか理解出来なかったと思われる。3人程、noneという解答すらあった。これに反してキャプション付の実験群では文字を見ることによりnunという単語を思い出したものが半分以上いたのであろう。

設問のなかで、quotationで囲んであるところ（問題5, 6, 8, 11）は映画の台詞がそのまま入るところである。問題5はMaxおじさんの“...I have finally found a most exciting entry for the Salzburg Folk Festival.”という台詞を聞き取って欲しかった。ここで気がつくのはentryもfolk festivalも、日本語になっていることばである。ところがentry（回答番号6）の方が実験群と統制群の誤答率の差が少ない。それはentryはnativeが発音したときとJapanese Englishの発音とそれほど違わないために理解出来たのではなからうか。folk festival（回答番号7）はこの映画の音声だけで聞くと日本語式発音とかなり違うので聞き取れ

なかったのであろう（誤答率75.5%）。それに対してキャプション付のグループは平均38.6%，上位群に限れば誤答率は20%に過ぎない。こう言うときこそまさにキャプションの威力が発揮されると言えよう。問題8（回答番号12, 13, 14）も台詞がそのまま入る問題だがここは映画のなかでキャプテンが強調のためゆっくり言っているので両グループとも殆ど全員が出来ている。それに反して問題11（回答番号17, 18）は“*It's high time...*”という表現を知らないものには耳からだけでは無理だったようで（この時のバロネスの喋り方が聞き取りにくいいため音声からだけでは聞き取りにくかったと思われる），平均65.8%間違えているが，キャプション付のグループでは *It's high time* は文字としては読みやすいので31.2%と間違えた人が統制群の半分以下になっている。問題12（回答番号19）は映画の中でグレーテルが“*It will be my first party...*”と言いながら退場する台詞をまず理解することが必要だが，その時この台詞を言っている子がグレーテルであると言うことが解らないと出来ない。ここでキャプション付のグループは映画の初めから何度も *Gretl* という文字を見てきているのに反してキャプションを見ていない統制群は7人もいる子供の名前は耳からだけではなかなか覚えられず誤答率75.7%と高いのに反して，キャプション付では17.6%とずっと低くなっている。と言うことは以上のように映画などで登場人物の名前などを理解するような時にもキャプションは役立っている。

Scene (5) これまでに見てきたところでキャプションの短い sentence はかなり読んで理解に役立っていることが解った。そこでかなり長い，しかも高度な内容のある会話を交わしている場面を見せ，聞き取れたこと（読み取れたこと）何でもいいから書かせるという，いわゆる *Note-taking* をさせてみた。場面として選んだのは映像からの影響が少なくても会話の難しい所として，着替えのため自分の部屋に戻ったマリヤのところへバロネスがきてキャプテンとマリヤがお互いに好意を持っていることなど嫌味たっぷりに伝えマリヤをこの家から追出そうとする場面である。次にその全文を載せるが，易しいところはこの際カウントせず長くて難しいところだけその箇所に番号をふり，幾つ聞き取ったか，あるいは読み取ったか，カウントして両グループで比較した（それぞれ3回見せた）。

その場面の台詞

Maria : It's very kind of you to offer to help me, Baroness.

Baroness : I'm delighted, Maria.

Maria : I...I really don't think I do have anything that would be appropriate.

Baroness : Now where is that lovely little thing you were wearing the other evening when Captain couldn't keep eyes off you? (2)

} (1)

Maria : Couldn't keep his eyes off me?

Baroness : Come, my dear, we are women. Let's not pretend we don't know when a man notices us. Here we are. (3)

Maria : Captain notices everybody and everything.

Baroness : There's no need for you to be so defensive, Maria. You are quite attractive, you know. Captain would hardly be a man if he didn't notice you. (4)

Maria : Baroness, I hope you're joking.

Baroness : Not at all.

Maria : But I have never done a thing to...

Baroness : But you don't have to, Maria. There's nothing more irresistible to a man than a woman who is in love with him. (5)

Maria : In love with him?

Baroness : Of course. What makes it so nice is he thinks he is in love with you. (6)

Maria : But that's not true.

Baroness : Surely you have noticed the way he looks into your eyes. And you know you blushed in his arms when you were dancing just now. Don't take it to heart. He'll get over it soon enough, I should think. Men do, you know. (7)

Maria : Then I should go. I mustn't stay here.

対象とした七つの会話のうち何らかを理解した数及び正解率 (いずれも平均)

	実験群	統制群
上位群	3.2(45.7%)	1.2(17.1%)
下位群	3.2(45.7)	1.5(21.4)
全体	3.2(45.7)	1.4(19.3)

t検定の結果 $t=6.892$ ($df_{46}=2.416$ $p<0.01$) で平均値に有意差のあることは明らかとなった。キャプション付きの実験群が統制群の倍以上の理解度を示している。

どの会話を理解したか正解率を見てみよう。

	実験群	統制群
(1)	56%	4%
(2)	76	32
(3)	20	0

(4)	64	36
(6)	69	36
(7)	36	36
(7)*	4	

これらの会話をどの程度理解したか被験者のとったノートをみてみると、理解したことはかなり限られている。以下被験者の答案から例を拾ってみよう。

- (1) お手伝い有難う。適当なドレスないわ。(「お手伝い有難う」だけは1/2として数えた。)
- (2) キャプテンがあなたから目が離せない。(‘Captain couldn’t keep his eyes off you.’ と英語で書く者もたくさんいた) しかし “Where is that lovely little thing you were wearing the other evening when Captain...” と続いた文として理解したのは実験群の二人だけだった。
- (3) 男性の目に気づいているのに気づいてないふりは止めましょう。
この会話が理解できたのは実験群の20%のみ。(上位群とは限らない)
- (4) この会話は There’s no need for you to be so defensive, Maria.
You are quite attractive, you know.
Captain would hardly be a man if he didn’t notice you.

と言う3つの sentence があるわけだが被験者は You’re quite attractive. だけを理解している。統制群の二人は attractive を active と間違えたのか「活動的」と書いている。

- (5) に関しては誰も何の記述もなかった。irresistible という英語が解らなかったと思われる。
- (6) ‘Captain is in love with Maria.’ とか「キャプテンはマリヤを好きだ。」等、ここは良く理解したようだ。それでも実験群の方が統制群の倍近くの理解度を示している。
- (7) この会話も Surely you have noticed the way he looks into your eyes.

And you know...you blushed in his arms when you were dancing just now.

Don’t take it to heart. He’ll get over it soon enough...

の三つの sentence から成っているが、真ん中の “...you blushed in his arms when you were dancing just now.” の所だけ理解できたらしくそこだけ書いている。ここは統制群が実験群と同じ出来ばえである。これはこの少し前のシーンで二人が一緒に踊ってマリヤの顔が赤くなったという所があったので解り易かったのであろう。実験群に最後の He’ll get over it soon enough. を聞き取って (あるいは読み取って) 「でも彼は直

「に元に戻るわ」と書いたのが一人いる。(7)*

上記のように両グループとも長文といってもその一部だけを理解しているだけなので長文理解とは言えないかも知れないが、二つのグループを比べると全体的にみて実験群（キャプション付き）は統制群の倍以上の事を理解していることは確かである。この事から長文の場合も、キャプション付の方が理解度が向上する可能性があることが明らかになった。（この問題に関しては上位群と下位群の差は見られなかった。）

期末テストの結果については、ここで比較するつもりはなかったのですが、試験問題としてキャプションは使わず、音声テープだけを用いてかなりの量の空所補充をさせた。採点の結果驚いたことに実験群と統制群の間に大きな差がみられたのでここに報告する。（いずれも平均点）

	実験群	統制群
上位群	80.42	65.00
下位群	68.37	50.22
全体	74.40	57.61

平均で17点近く差が出ている。（上位群、下位群とも同じぐらいの差が見られる。）この結果からも明らかなように、検証すべきこと（1）の「対象教材の理解度」に関してはキャプション付きの実験群の方が音声、映像だけの統制群よりも理解度が向上したことが実証されたことになる。

検証すべきこと（2）一般的聴取理解力の向上に差は見られるか。この検証のために14回の授業の後、JACET テスト Form (B) を行なう予定であったが就職活動のため被験者の数が揃わず夏休み明けに行なった。その結果を Form (A) 及び期末テストと比較して示すと以下のようなものである。（それぞれ平均点）

	実験群			統制群		
	Form (A)	Form (B)	期末	Form (A)	Form (B)	期末
上位群	75.37	68.24	80.42	74.63	64.89	65.00
下位群	38.74	40.89	68.37	41.67	44.24	50.22
全体	57.05	54.17	74.39	58.59	54.86	57.81

JACET テスト Form (A) と Form (B) を比べてみると実験群も統制群も平均値では得点がほぼ同じぐらい下がっている。（実験群で2.88、統制群で3.70減）Form (B) は Form (A) より

一般的に1点位難しいと言われているとはいえ、学習の効果が見られないようで遺憾である。しかし14回の授業の直後にこのテストをやっていたらもう少し良い結果が出たと思われる。就職活動に疲れた休み明けというのは悪条件が揃いすぎた。

次に実験群と統制群の間の Form (B) の得点を比べて見ると僅かではあるが統制群の方が高くなっている。期末テストではかなり実験群に比べて得点が低いことを考慮すると、検証すべき点(2)の「一般的聴取理解力の向上」に関してはキャプション無しの統制群は僅かの差ながら実験群より高い理解度を示した。しかしこれだけのデータではっきり断定を下すことは到底出来ないなのでこのテーマに関しては再度実験の必要があると言えよう。

結論

以上見てきたように検証すべきこと(1)の対象教材の理解度に関しては、Scene(3)を除いてどの問題もキャプション付きの実験群が統制群に比べて優れていた。(2)の一般的聴取理解力については、ほんの僅かだけ(0.69点)統制群は実験群より理解度が高かったがこれは一回の JACET Form (B) のテストを比較しただけなのでここで結論は出すべきではない。このテーマはこれからの課題としたい。(3)の能力差に関しては各テストでその都度触れてきたように case by case であったが、一般的に言ってあまり上位群と下位群の間に差は見られなかった。

この実験でとにかくキャプション付きで映画を見せることはキャプションを付けない場合よりその映画の理解を促すことが確かめられた。しかもそのことにより一般的英語の聴取能力もキャプションなしの統制群と比べて殆ど同じ位の得点であったと言うことはこれから安心してキャプション付き映画を教材として利用していきける。

ここで考慮したいことはキャプションをどこで見せるべきかと言うことである。この実験では実験群には最初からキャプションを見せたが、最初の一回はない方が音声や映像に集中出来ていいのではないかと思われ、実験群の被験者はどう思っているかアンケートをとってみた。

	上位群	下位群
一回目はない方がいい	75%	25%
最初からある方がいい	25%	75%

以上の様に上位群の被験者は圧倒的に一回目は字幕はない方がいいという結果になったがこれは聴解力のある者ほど音声に集中して聞いてみたいと思うからであろう。1993 LLA 全国大会で鈴木広子氏により eye-marker をつけて被験者の視線がどのように動くかと言う発

表があったが英語のヒアリング能力の特に優れた一人を除き他の総ての被験者の視線はまずキャプションに向けられていたとのことであった。と言うことはその間、音声及び映像への注意はおろそかになっているわけであるから、キャプション付きで1回だけ見せて終りという見せ方だけは避けなければならない。Scene (3) の所でも触れたように映画の学習する場面の内容とか、そこで使われている英語の難易度に応じて、キャプションを最初に見せるか、二度目に見せるか選択することが望ましい。いずれにせよ同じ場面を二回以上見せて、その内一回はキャプションなしで見せることが大切であろう。